

KEIZAIREN 情報

2022.09 NO.1296

安全・安心・新鮮でおいしい静岡県産の農畜産物をお届けします。

適正施肥のための土壌診断と 大井川肥料工場について

Main topics

適正施肥のための土壌診断と
大井川肥料工場について ……01

topics&news

営農コスト上昇の情勢を市場と共有
 パートナー市場との情報共有・意見交換会を開催…03
 関東地域の茶の品質向上と消費拡大をめざして
第49回関東ブロック茶の共進会 ……03
 品質向上による販売強化を
第21回静岡県なし果実品評会 ……04
 県産ぶどうの品質向上を
第44回ぶどう果実品評会 ……04
 本会ブランド「静岡そだち」をPR
テレビ番組で「静岡そだち」を紹介 ……04

輸出レポート ……05

お知らせ

建設部からのお知らせ ……06
テレビ番組のご紹介 ……06

営農支援だより

いちご『きらび香』早期未分化定植本圃増殖栽培…07
 最近の水稻品種の動向と注目の水稻新品種…08

お知らせ

あくりんく静岡からのお知らせ ……09
JAタウンおすすめ商品のご紹介 ……09
提携協NEWS ……10



▲メインピクチャー「適正施肥のための土壌診断と大井川肥料工場について」



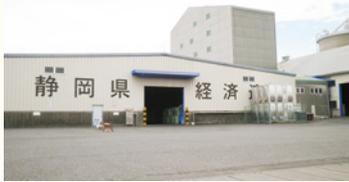
▲第21回静岡県なし果実品評会



適正施肥のための土壌診断と 大井川肥料工場について

I はじめに

本会は「JA静岡経済連3か年計画」の基本目標として「経営環境に対応した事業・経営の転換」に取り組んでいます。しかし昨今、肥料を巡る情勢は大きく変化し肥料価格の高騰、安定供給が脅かされる事態となつています。先月号では、肥料安定供給のための本会の取組について肥料を巡る情勢とともにご紹介しました。今月号では、適正施肥のための土壌診断と本会肥料工場の取組についてご紹介します。



▲大井川肥料工場



▲大井川肥料工場事務棟 (土壌肥料分析センター)

II 土壌診断

1. 概要

土壌診断は、作物を生産する圃場の土壌を採取し土壌中の養分の過不足を診断します。その結果を参考に、適正施肥（過剰施肥の回避、不足養分の適切な補充）や土づくり（土壌改良材などの施用）をすることを目的としています。特に、過剰施肥は肥料コストが増えるだけでなく、施



▲土壌肥料分析センター

肥作業の負担が増えたり、作物の生育にも影響を及ぼしたりすることがあります。本会土壌肥料分析センターではJAからの依頼に基づき土壌診断を行っています。土壌診断は、サンプルとなる土壌から成分を抽出したる液を用いて土壌中に残った肥料成分の量を測定します。

2. 土壌肥料分析センター

大井川肥料工場事務棟内に併設されている土壌肥料分析センターでは、令和3年に土壌分析機器の整備を行いました。半自動前処理装置や高速土壌養分自動分析装置、PH/EC



▲土壌診断機器「半自動前処理装置」

自動測定装置などを整備し、JAより本会に求められる土壌診断の需要に応えるための体制を構築しています。また、肥料工場で製造した配合肥料の成分分析や品質管理も行っています。

3. 土壌診断の活用

土壌診断の結果は、各JAで施肥設計や土づくり指導に活用されています。また、大井川肥料工場で製造する肥料設計にも土壌診断結果を活用しており、肥料配合の見直しや変更などを行う事例があります。

III 大井川肥料工場

1. 概要

大井川肥料工場は、大井川港に隣接しており、年間約500銘柄、



▲無機質肥料原料のサンプル



▲船を使った肥料原料仕入（硫安650トン）

約1万8千トンを製造しています。工場事務棟内に配合肥料を試作するためのサンプル室を備え、J・A・組合員の皆さまと共に、より地域にあった肥料の設計を検討しています。

2. 役割

大井川肥料工場は、原料を混ぜ合わせる「配合肥料」と混ぜ合わせたあとに成型した「ペレット」を製造しています。肥料原料は、県内の搾油工場や魚の加工工場、国内の様々な地域や海外から仕入れており、その種類は200種以上あります。本工場では、船を使った大口の原料仕入れも行われています。肥料原料には化学的に製造したものもありますが、



▲保管される肥料原料（硫安）

本県は菜種油粕や魚粕などの有機物が豊富に入手できるので、本県の農業では有機質肥料を多く使用しています。

我が国で使用している化学肥料原料の多くは輸入に頼っており、国外の情勢に加え円安や燃料費の高騰などの背景もあって、肥料の価格は過去に例のないほど急騰しています。現在は、肥料原料を確保する事さえ難しい状況が続いています。

このような情勢でも、組合員の皆さまのための工場である大井川肥料工場では、予約に基づいて原料を計画的かつ効率的に仕入れることを通じて安定供給に取り組んでいます。



▲工場で製造される肥料

IV おわりに

今回のメイントピックスは、本会の土壤肥料分析センターと大井川肥料工場での取組について紹介いたしました。本会では、肥料価格の高騰に対するコスト削減策の一つとして適正施肥のための土壤診断を行っています。また、肥料の安定供給と適

本会として、独自の国内外からの最適調達、未利用資源の活用を行っており、J・Aグループの一括仕入れにも取り組んでいます。組合員の皆さまが、営農を継続するため、肥料の安定供給を第一に、原料製品の在庫を常備して対応しています。



▲肥料倉庫（ペレット保管ラック）

正な価格設定のために組合員の皆さまの予約に基づいた最適な原料調達に取り組んでいます。土壤肥料分析センターと大井川肥料工場では、土壤診断、肥料製造と肥料品質管理の一連の成果としてより良い農産物の生産を通じ、組合員の所得向上に取り組んでまいります。

今後とも土壤肥料分析センターと大井川肥料工場のご活用をお願いいたします。

問い合わせ先

●大井川肥料工場

住所…焼津市飯淵2020番地

電話…054-622-4182

●土壤肥料分析センター

電話…054-622-3250

営農コスト上昇の情勢を市場と共有 パートナー市場との情報共有・意見交換会を開催

7月28日、みかん園芸部は静岡市内で本会のパートナー市場と県内JAの販売担当部長、県の担当者ら約40人を集め、農産物生産コスト上昇に伴う情報共有・意見交換会を開催しました。エネルギー情勢や国際情勢、円安により肥料や農業資材価格が高騰し、農産物生産コストが大幅に上昇している情勢を市場と共有し、販売価格への反映に理解を得ることが目的。

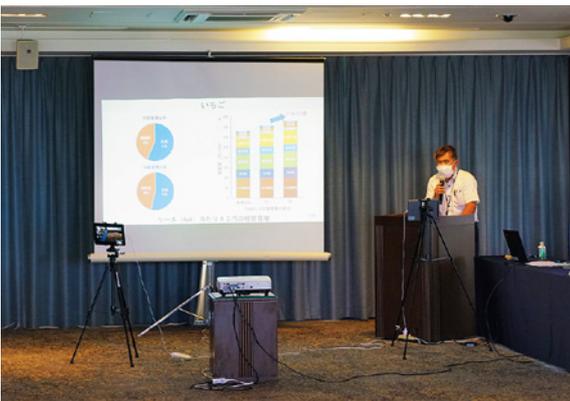
みかん園芸部と生産資材部より肥料や農業用フィルムなどの生産・出荷価格が高騰している情勢を報告し、その影響による経営費を品目別



▲石川常務の挨拶

に試算し、農産物生産コストの上昇について説明しました。また、出席したJAからは各地区の営農や販売の情勢について報告されました。

石川和弘常務理事は「生産コストが上昇する厳しい環境だが、JAグループの総合力を発揮し組合員の営農継続と生産量の維持拡大に取り組みたい。また産地とパートナー市場が連携し実需者にも理解を得たい」と話し、市場代表者は「共有した農産物生産コスト上昇について、流通業者やバイヤーとの商談を通じ価格反映に対する理解を醸成していきたい」と話しました。



▲農産物生産コスト上昇について説明する野菜花卉課の藤原課長

関東地域の茶の品質向上と消費拡大をめざして 第49回関東ブロック茶の共進会

7月27日から3日間、埼玉県入間市の県茶業研究所で「第49回関東ブロック茶の共進会」が行われ、静岡、埼玉、茨城、新潟の4県から計64点の荒茶および仕上げ茶が出品され、御前崎市の丸池製茶株式会社が荒茶・深蒸し煎茶の部において、最優秀賞（金賞）・農林水産大臣賞を受賞しました。また本県は同部門で金賞・銀賞・銅賞の上位を独占しました。

共進会は、関東ブロックで生産される茶の品質向上を図るとともに、消費への普及宣伝などを行うことにより、当該地域の茶業の振興に寄与することが目的。

本県からは、荒茶・普通煎茶4点、荒茶・深蒸し煎茶24点が出品されました。審査員が茶葉の形状と色沢を評価する外観審査と湯を注いで浸出し水色・香り・味の内質審査の合計4項目を審査しました。

県内の上位入賞者は次のとおり（敬称略・カッコ内は産地所在地名）。

- 荒茶・深蒸し煎茶の部
- 1位 最優秀賞（金賞）・農林水産大臣賞
丸池製茶株式会社
代表取締役 戸塚訓由（御前崎市）
- 2位 金賞・関東農政局長賞
夢路松下園
松下彰（掛川市）
- 3位 銀賞・全国茶生産団体連合会長賞
農事組合法人山東茶業組合
代表理事 伊藤智章（掛川市）
- 4位 銀賞
有限会社マルスギ杉浦製茶
代表 杉浦崇仁（牧之原市）
- 5位 銀賞
株式会社 原田総合製茶
代表取締役 佐次本康行（掛川市）
- 6位 銅賞
丸池製茶株式会社
戸塚敦士（御前崎市）
- 7位 銅賞
株式会社まるまき
代表取締役社長 秋山治幸（牧之原市）
- 8位 銅賞
株式会社カネジユウ農園
代表取締役社長 渡辺知泰（牧之原市）
- 9位 銅賞
菅山もみもみ会
会長 赤堀久人（牧之原市）
- 10位 銅賞
大井川農協 青壮年部 島田支部
支部長 宮村智久（島田市）
- 11位 銅賞
農事組合法人山東茶業組合
理事 落合秀幸（掛川市）

品質向上による販売強化を 第21回静岡県なし果実品評会

8月5日、静岡県落葉果樹振興協会（事務局・柑橘果樹課）は、県農業会館で、「第21回静岡県なし果実品評会」を開きました。静岡県産なしの生産技術向上を図ることが目的。今回の出品点数は14点で、静岡県農林技術研究所果樹研究センターの松浦英之センター長が審査長を務め、担当研究員ら審査員10人が、形状や玉ぞろい、色沢などの外観、肉質や食味などの内容を審査しました。

出品物の平均糖度は11・6度、最高糖度は12・5度と天候不順の影響で糖度が低い果実がいくつか見られました。松浦センター長は「本年は7月の降雨や一部地域でカメムシの発生が多く栽培管理が難しい中、出品物のレベルは非常に高く、入賞した果実はすばらしい出来だつた」と講評しました。上位入賞者は次のとおり（敬称略）。



▲銀賞を獲得した大畑里志さんの梨



▲金賞を獲得した瀧智さんの梨

金賞

静岡県知事賞

静岡県農林技術研究所果樹研究センター長賞

瀧智（J A しみず）

銀賞

静岡県経済産業部長賞

静岡県農業協同組合中央会代表理事
会長賞

大畑里志（J A おおいがわ）

銅賞

鈴木史浩（J A ふじ伊豆）

成瀬逸郎（J A おおいがわ）

県産ぶどうの品質向上を 第44回ぶどう果実品評会

8月25日、静岡県落葉果樹振興協会（事務局・柑橘果樹課）は、浜松市のJ A とびあ浜松湖北宮農センターで第44回ぶどう果実品評会を開きました。県産ぶどうの品質改善と生産者の技術向上を図り、産地を維持することが目的。

品種はピオーネ（種なし）で、出品点数は11点でした。静岡県果樹研究センター果樹加工技術科の磯部卓文科長が審査長を務め、県の職員ら審査員8人が、房形や房ぞろい、果実の大きさなどの外観、肉質や食味などの内容を審査しました。出品物の平均糖度は18・1度、最高糖度は19・6度でした。上位入賞者は次のとおり（敬称略）。



金賞

松本均（J A とびあ浜松）

銀賞

伊藤克己（J A とびあ浜松）

銅賞

松本一夫（J A とびあ浜松）

二橋誠（J A とびあ浜松）

本会ブランド「静岡そだち」をPR テレビ番組で「静岡そだち」を紹介

7月30日、食糧課はテレビ番組「しずおかバカ売れの法則」（毎月最終土曜17時00分からテレビ静岡で放送）で本会ブランド「静岡そだち」のPRを行いました。番組は、お笑い芸人のアンジャッシュ児嶋一哉さんがMCを務め、静岡で「バカ売れ」している商品を紹介する情報番組で、食糧課の杉本耀介職員が出演しました。番組では、「静岡そだち」ブランド肉として「特選和牛静岡そだち」を試食した後、ブランド米「静岡そだちコシヒカリ」を紹介し、厳しい基準をクリアした中から最高級ブランドとして「静岡そだち」が誕生したことをPRしました。「静岡そだちコシヒカリ」は、検査で1等に格付けされ、玄米食味値83点以上の静岡コシヒカリをブランド化したものです。





輸出レポート

本会は、今後の日本経済を見据えた農産物の輸出拡大と、各国の規制にあった産地づくりに取り組んでいます。その中で今回は、静岡中央卸売市場（静岡VF）へ併設されたドックシェルターを活用し、清水港から輸出をする新たな取組みを報告します。

国土交通省と農林水産省が産直港湾全国1号として、昨年8月に認定した「産地・港湾連携型農林水産物・食品輸出促進計画（連携計画）」に基づき、静岡市の青果卸会社静岡VF(株)から低温倉庫で農産物をパレタイズし、ドックシェルター（トラックなどのコンテナと冷蔵・冷凍倉庫の搬入口との隙間を埋め、荷物を外気に触れないようにする装置）を使うことでコールドチェーンを維持したまま輸出できるようにになりました。現在、清水港を利用した農産物の輸出促進を目的として、国や県の事業を実施しています。

そのうち、国交省事業「清水港農産物輸出広域連携業務」ならびに静岡県事業「山の洲（やまのくに）農産物輸出拡大事業」について報告いたします。

農産物鮮度保持試験

7月22日から8月22日の1カ月間、東南アジア圏内における船舶輸送を想定した鮮度保持試験を静岡VF(株)で実施しました。

内容としては、本会の所有する高性能型鮮度保持コンテナ「フーテック」と一般に使用されるコンテナ「リーファー」に、それぞれ本県産中心の青果、花卉、椎茸など20品目の農

農産物鮮度保持試験の流れ

中部産農産物 + 広域集荷農産物



静岡市中央卸売市場（集荷拠点）

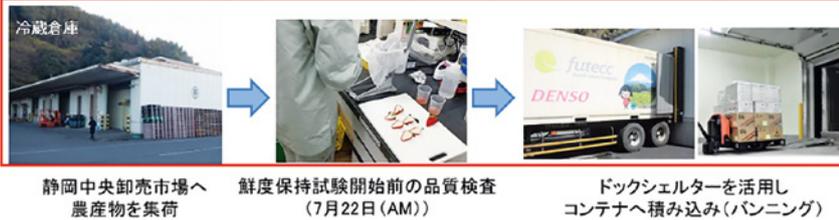
清水港

▲広域連携の仕組み



▲フーテックを使用した詰込み作業

静岡市中央卸売市場の作業



清水港新興津コンテナターミナルへ



▲鮮度保持試験の流れ



▲出荷物とコンテナ内部



産物を蔵置し、実輸出を想定した期間（10日、20日、30日）にて外観や官能調査を実施しました。

ドックシェルターからの輸出第1号

7月22日、ドックシェルターからの輸出第1号として、香港への輸出品目の詰込み作業を実施しました。品目は本県産のアメーラトマトや洋菜類の他、山梨県の桃、長野のパセリなど10品目を40フィートのコンテナ

ナに合計10パレットを詰込み、清水港から香港へ出発しました。遅延も無く、8月1日に香港に入港し、5日には店頭に並びました。翌週7月29日には第二便として同品目を出荷しました。今後、秋冬にかけて、本県産の農産物を中心にシンガポール、台湾へも輸出して参ります。

担当：営業部 流通開発課
TEL：054-284-9728

富士伊豆農業協同組合

あいら伊豆地区 新店舗完成 あいら伊豆地区本部・ 宇佐美支店建設工事 竣工式

8月23日、J Aふじ伊豆は、あいら伊豆地区本部・宇佐美支店建設工事の竣工式を行いました。

神事は、新型コロナウイルス感染拡大防止の対策を行い、鈴木正三組合長をはじめ、最小限の出席者により厳粛に執り行われました。

本工事は、現在のあいら伊豆地区本部・宇佐美支店の敷地の向かいに建替えを行い、9月5日に新店舗がオープンしました。

新しい施設は、1階に宇佐美支店の機能を、2階には地区本部と会議室の機能をもたせた2階建の建物とし、屋根上には太陽光発電設備、屋外にはLPガス発電機設備を設置するなど、環境に配慮した建物としました。

新店舗オープン後には引き続き、現在のあいら伊豆地区本部・宇佐美支店の解体工事を実施予定です。

設計監理は、静岡県経済連一級建築士事務所が行っています。



▲外観写真



▲玉串奉奠



▲鈴木組合長挨拶

テレビ番組

「しずおかごはんが食べたい！」(テレビ静岡)

担当：食糧部 食糧課 (TEL:054-284-9737)

静岡県産米麦流通連絡協議会（事務局：食糧部）は、テレビ番組「しずおかごはんが食べたい！」(テレビ静岡・全11回放送)に協賛し、県産米のPRを行っています。

令和4年度の第4回目（8月20日）の放送では、お笑い芸人のオーディリー・春日俊彰さんが、静岡市から「きぬむすめ」を紹介しました。「きぬむすめ」は粘りとうまみが詰まった冷めてもおいしいお米で、甘みがあり炊きあがりのつやがあり白さが特徴。番組では、生産者からのビデオメッセージを紹介し県産米のPRを行いました。

次回の「しずおかごはんが食べたい！」は、浜松市からフォーリンラブ・パービーさんが紹介予定です。放送予定は9月17日（土）の夕方5時となります。



▲生産者からのメッセージを紹介



▲「きぬむすめ」を紹介



▲「きぬむすめ」を味わう春日さん

営農支援だより



いちご『きらび香』早期未分化定植本圃増殖栽培

一 いちご『きらび香』の特性を活かして

きらび香の品種特性として、ランナー小苗の発根と本圃定植後の発根をさせるのに苦労されています。ランナー小苗の発根が遅いことでランナー増殖が遅れやすく育苗の難しさにつながっています。本圃定植後の発根遅れは定植後出蕾までに根量を増やせないとな数や株出来に影響が出て収量にも影響してきます。

きらび香の花芽分化時期が「紅ほっぺ」と比べて5日～7日程度早い傾向にあります。同じ環境で管理して花芽分化が早い特性を活かした「早期未分化定植」をされている生産者の方もいらっしゃいますが、普通ポット育苗で花芽分化後に定植する従来育苗より3日～5日程度遅れる傾向はありますが、肥培管理によって分化しやすくなります。

二 育苗の省力化

「早期未分化定植」の場合育苗本数は従来通りの本数を育苗し、切り離しと同時（7月下旬）に定植を行い低濃度の養液（原水+

0.1）を給液しながら本圃で花芽分化をさせていきます。（平成28年度 あたらしい農業技術 イチゴ「きらび香」の高設栽培における未分化定植栽培方法より）

今回提案する「早期未分化定植本圃増殖栽培」では、同様の方法で育苗をしますが、育苗本数を半分または3分の1育苗する方法で本圃に定植したのち（8月下旬までに）ランナー増殖をする方法です。育苗本数を減らすことで育苗管理の軽減と経費の軽減が可能です。早期に定植するメリットとして、十分に発根してから花芽分化をさせる事ができます。

注意点としては、前作の収穫終了から7月下旬に定植するまでの期間が短くなるため、片付け作業・



図-1 片側定植 反対側にランナー誘引した様子(定植後30日)

定植準備を計画的に進める事が大切となります。また、選択する薬剤も本圃定植期が早まることで育苗期に使用する剤の使用ができなくなるなどの事が考えられます。

栽培管理としては、7月下旬育苗切離しと同時に本圃片側に定植（1倍増殖） ちどり植え2本飛ばし（2倍増殖）で植付け、ランナー小苗増殖中は養液管理EC（原水+0.2）を給液しながら、硝酸イオン濃度で200～250ppm程度で管理。苗が確保された9月には花芽分化誘導期のため養液管理EC（原水+0.1）に変更し、硝酸イオン濃度100～50ppmを目安に管理します。完全花芽分化をするまでは養液濃度の上昇は控え、花芽分化が確認されてから少しずつ給



図-2 定植から70日出蕾・開花前の様子(まだ定植株と差がみられる)

液濃度を5～7日おきにかけていくようにします。一気に上げると果形が乱れるので注意が必要です。防除体系も定植が早まることで10月中旬までの防除を徹底し、出蕾・開花・天敵・ミツバチの導入以降はできるだけ防除を減らす管理が必要になります。ハダニ・アザミウマ類に対する天敵利用が重要です。

花芽分化に影響がおよぶため、環境モニタリング装置の導入によりハウス内気温・湿度・CO₂などを観察することも大切です。

三 おわりに

「早期未分化定植本圃増殖栽培」は本年度県下20名ほどが実施されています。昨年度までは試験的な栽培が中心でしたが、本格的に栽培が始まり普通栽培以上の収量を目指して取り組んでいきます。（野菜花卉課技術コンサルタント 渥美忠行）

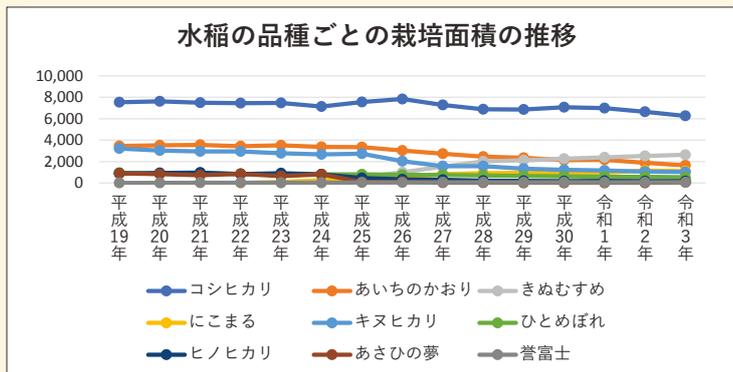


図-3 収穫始めの様子

最近の水稲品種の動向と注目の水稲新品種

一 静岡県における最近の水稲品種の動向

静岡県では、水稲品種としては、「コシヒカリ」や「きぬむすめ」「にこまる」「あいちのかおりSB」などの品種が多く作付けされていますが、近年は、「きぬむすめ」「にこまる」などの、良食味で高温登熟性に優れる品種が増加傾向にあります。



きぬむすめ、にこまるが増加し、そのほかは漸減。

二 新たなうるち品種の登場

県内では、「コシヒカリ」「あいちのかおりSB」「きぬむすめ」に続く品種として、「キヌヒカリ」が多く栽培されていましたが、夏の高温の影響による白未熟粒の発生が多くなり、近年は品質の低下が問題となりました。

そこで、「キヌヒカリ」の代わりとして、高温登熟性に優れ、多収で良食味の「にじのきらめき」が県の奨励品種として導入され、栽培面積が増加しています。

経済連・米麦協会では県や農協と協力し、「にじのきらめき」の栽培暦を作成し、これを用いて生産者への栽培指導を行っています。

三 注目の酒造好適米品種「令和誉富士」の登場

静岡県で育成した酒造好適米である「誉富士」は、県内のほとんどの蔵元で醸造され、「誉富士」を用いて醸造した酒は静岡県オリジナルの酒として消費者に愛されています。

しかし、「誉富士」は収量性が安定しないことや穂発芽しやすいという課題がありました。

その課題を解決するために、新しい酒造好適米が県で育成され、「令和誉富士」が誕生しました。

(令和誉富士の特徴)

- ① 収量性は、「誉富士」より平均十二%程度向上した。
- ② 穂発芽性が改善した。
- ③ 誉富士のうまみに加え、香りが良いと高い評価が得られた。



左が「誉富士」、右が「令和誉富士」
収量性が改善された、「令和誉富士」

四 「誉富士」「令和誉富士」の普及推進

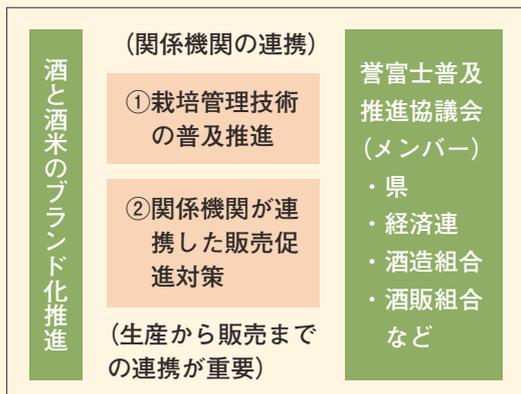
「誉富士」の生産振興と、これを用いた地酒の醸造・販売促進を関係者が一体となった「静岡県誉富士普及推進協議会」を中心に推進しています。

協議会は経済連や県、酒造業者および酒類販売業者などで構成され、以下の事業を行っています。

五 今後の取組案

今後、「令和誉富士」の普及推進には、「静岡県誉富士普及推進協議会」各作業部会を活用して次のような取組を行うことを提案します。

- ① 「誉富士」の生産拡大、生産性および品質の改善
- ② 「誉富士」の需給調整と生産計画、適正流通の推進
- ③ 「誉富士」の醸造技術の改善醸造推進
- ④ 「誉富士」を用いた地酒の消費拡大、マーケティング戦略
- ⑤ 「誉富士」の後継有望系統や有望微生物の実用性の評価



(食糧部営農技術コンサルタント 古川信好)

【 営農ナビ 】 文字が大きく見やすくなってリニューアルしました!

県内
JA限定

あぐりんく静岡からのお知らせ

農産物安全分析センター

分析メニュー、申込書、分析フロー（手順）を掲載しています。分析の際はコチラから!

経済連肥薬通信

更新

経済連肥薬通信9月号
経済連コンサルタントによる技術情報

柑橘果樹情報

茶園からみかん園への転換事例や栽培暦、柑橘誌の紹介を掲載しています。

販売情報

東京、名古屋、大阪の青果・花卉の概況を掲載しています。

生産・事業推進に
役立つ情報が満載!!

●イントラから利用できます。

～他にも、農畜産物別の情報なども充実～

担当：生産資材部 生産振興開発課 (TEL 054-284-9729)

JAタウン しずおか「手しお屋」おすすめ商品のご紹介

今月のおすすめ商品をご紹介します!



JAふじ伊豆特集

令和4年4月に県東部地区の8JAが合併し「JAふじ伊豆」が誕生しました! 先月号に引き続きJAふじ伊豆の各地区の農産物をご紹介します。

あいら伊豆地区 だいだいサイダー



【商品紹介】
県知事の認定を受けた「エコファーマー」が栽培したエコだいだいの生搾り果汁3%、伊豆赤沢港沖からくみ上げた海洋深層水0.5%を使用しています。だいだい特有のさわやかな香りと、すっきりとした味わいに仕上がっています。

規格:240ml×20本
販売価格:4,100円(送料・税込)

御殿場地区 御殿場こしひかり



【商品紹介】
県内屈指の米どころ「御殿場」のコシヒカリです。御殿場こしひかりは、富士山麓に広がる田園地帯で栽培され、主に富士山からの清らかな豊富な伏流水を利用して栽培しています。

規格:5kg1袋
販売価格:3,750円(送料・税込)

富士地区 富士のらっかしょ『しなす入り』



【商品紹介】
富士地区は、南に駿河湾、北に富士山南麓と標高差に富む地形を有した立地を生かし品質の良い落花生を栽培しています。肥料・農薬を統一した統一栽培により「さや」の白さとコクが特徴の味が濃い落花生です。未成熟の落花生である「しなす」は、小ぶりで柔らかく皮ごと食べられます。

規格:1kg
販売価格:3,000円
(送料・税込、クール代別途)

富士宮地区 「う宮～な」厳選食材セット「野菜」



【商品紹介】
ファーマーズマーケット「う宮(みや)～な」から厳選した富士宮産の旬の野菜の詰め合わせです。世界遺産の富士山麓の大地で育った新鮮な「朝採り」野菜をお届けします。「う宮～な」とは…この地方の方で「おいしい」を意味する「うみや～」と富士宮の「宮」をかけ、「な」は菜っ葉の「な」をイメージし農産物全体を表しています。

規格:野菜セット
販売価格:3,580円
(送料・税込、クール代別途)



しずおか手しお屋 🔍 検索

◀ご紹介した商品以外にも
JAふじ伊豆の農畜産物を販売中!

※販売価格や販売時期は変更する場合があります。

担当：営業部 流通開発課
(TEL:054-284-9728)

提携協NEWS

「静岡県協同組合間提携推進協議会」（略称：提携協）では、1990年の発足以来、構成団体である県域の協同組合6団体間で事業提携に向けた検討や交流事業、環境保全活動などに取り組んでいます。この提携協NEWSでは本協議会の活動内容について報告します。

静岡県協同組合間提携推進協議会総会を開催

7月14日、静岡市内で総会を開き、委員や幹事、事務局など25人が出席しました。総会では、2021年度事業報告と収支決算、2022年度の事業計画などを協議し承認を得ました。



▲JCA比嘉専務

2021年度はコロナ禍の中、活動が大きく制限され例年実施している環境保全活動は規模を縮小しての実施または中止となりましたが、女性交流集会をオンラインで、協同組合学習交流会を対面で開催しました。また、新たな提携のあり方に関する研究として日本協同組合連携機構（JCA）との意見交換会を実施しました。

総会終了後には、JCAの比嘉政浩代表理事専務を講師に招き「協同組合間連携に期待すること」と題し記念講演を行いました。



2022年度活動報告 富士山麓育林活動

6月25日、富士宮市で富士山麓育林活動を行いました。この活動は国際協同組合年の事業として2012年に行った記念植樹の維持管理を目的として実施しているものです。

当日は、富士森林組合の指導のもと、草刈り鎌を使用して腰の丈以上に成長した雑草を刈り取り、苗木や記念植樹地を囲っている防護ネットに巻き付いているつるを外す作業を行いました。今年で記念植樹をしてから10年が経過し、当時植樹した苗木は、大きいもので3メートル以上に成長しています。この記念植樹地が立派な林になるよう、今後もこの富士山麓育林活動を継続して実施していきます。



2022年度活動報告 瀬戸川の水生生物観察会

7月30日、藤枝市の瀬戸川で水生生物観察会を開催しました。身近な河川に生息する生物の調査を通じて参加者に水質保全や環境保全に対する意識を高めてもらうことが目的。

当日は、静岡県経済産業部水産・海洋局水産振興課の花井孝之課長の指導の下、構成団体の職員の親子10組が1時間ほど瀬戸川（瀬戸谷びく石）に生息する水生生物を採取しました。子どもたちは花井課長から採取方法を教わり、サワガニやハゼなどの水生生物を観察し、このような豊かな生態系や川から海に至る自然環境を守るため、プラスチックごみなどの削減に努めなければならないことを認識しました。



組合員の
みなさまへ

太陽の恵み みかん王国・静岡産温州みかん



**1 果実の香り
ぎゅっとみかん
濃縮還元果汁100%**
(190g×30本)
1缶に静岡県産温州みかん5個分の果汁を使用。無加糖で温州みかん本来の香りと甘さが際立つ、贅沢な味に仕上げました。

機能性表示食品
届出番号:E629



**2 みかん日和
濃縮還元果汁70%**
(190g×30本)
砂糖由来のイヌリン(食物繊維)を使用し、従来のみかん飲料より、酸味を抑えさらにおいしく飲みやすくしました。

機能性表示食品
届出番号:E293



**3 本物果汁入り
スパークリング
みかん**
(280ml×24本)
静岡県産温州みかんの果汁を10%使用し、フレッシュ感の高い柑橘系の香りと“キリッ”と“パンチ”のきいた炭酸飲料です。

【機能性表示食品】
届出表示：本品にはGABAが含まれています。GABAには血圧が高めの方の血圧を下げる機能があることが報告されています。本品は血圧が気になる方に適しています。

静岡県JAの特産ドリンク
期間：2022.4月～2023.3月末

静岡県産茶葉を使用した
すっきり飲みやすい
緑茶飲料！



**4 静岡茶ゆったり
490gポトル缶**
(ポトル缶)
(490g×24本)
静岡茶の香りが感じられ、すっきりした飲み心地が特長です。

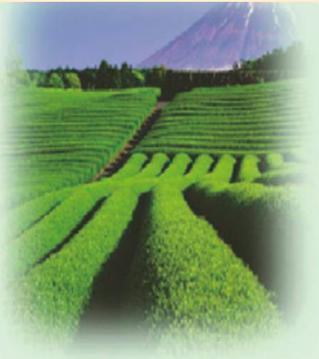
静岡県産
茶葉
100%使用



**5 静岡茶ゆったり
290gポトル缶**
(ミニポトル缶)
(290g×24本)
県内産茶葉のみを厳選し、煎茶抹茶を加えた茶飲料です。

【環境に配慮したアルミポトル缶】
静岡茶ゆったりに使用するアルミポトル缶は、リサイクルする際のエネルギー消費が少なく環境にやさしい容器です。

【紫外線、酸素からの劣化を防ぎます】
アルミポトル缶は、紫外線を通してにくく、更に窒素を充填することで自身の劣化を極力抑え、本来のお茶の香りを長く楽しめます。



6 ちゃレンジ



静岡県産
茶・みかん
(280g×24本)
静岡県産の温州みかん(果汁30%)と一番茶を使用し、みかんの甘さとお茶の渋みの絶妙なバランスを追求しました。

**7 りんごジュース
密閉絞り**



青森県産
りんご
(195g×30本)
完熟青森県産りんご「ふじ」を主体としたストレート果汁100%ジュースです。製造工程で空気がふれないよう特殊製法で作りました。

8 紀州うめドリンク



紀州産
うめ
(195g×30本)
紀州産南高梅を使用したほんのり甘く、やさしい風味の10%果汁梅ドリンクです。

9 ノももん



山梨県産
もも
(190g×30本)
マイルドな桃のあまみを感じられ、さわやかでスッパリとした口あたりが人気です。濃縮還元果汁100%

10 北海道トマトジュース



機能性表示食品 (無塩)
北海道産
トマト
(160g×20本)
トマトの一大産地でもある北海道産トマトを100%使用した、食塩無添加のストレートジュースです。

11 はちみつレモン



(190g×30本)
昔懐かしい定番商品！はちみつのやさしい甘さとレモンの爽やかな酸味がマッチした変わらぬおいしさです。スポーツ後やお風呂上りにおすすめです。

12 ドトールコーヒー



(微糖)
ミルク入り
(260g×24本)
しっかりとしたコーヒーの中にやさしい甘みを感じる微糖タイプのコーヒーです。甘さとミルクがコーヒーの風味をさらに引き立てます。

13 ドトールコーヒー



(無糖)
(260g×24本)
後味スッキリ、飲みやすさを追求した無糖ブラックコーヒー。口に広がる豊かな香りをお楽しみください。

JA静岡経済連

担当：くらし支援部 生活葬祭課 (TEL：054-284-9740)

